

・

小石川植物園に「山地植物栽培場」という区画があります。通称「ロックガーデン」と呼ばれています。ロックガーデンの歴史は古く、実に明治 21 年 (1888 年) にさかのぼります。最初はいまうまいかなかったそうですが、クロボク（黒岩）と給水配管を埋設して順調に栽培できるようになったそうです。

小石川植物園は武蔵野台地の東端の「舌状台地」の一つである「小石川・白山台地」と「小石川低地」の境目の「段丘崖（だんきゅうがい）」に位置しています。ロックガーデンはその段丘崖の上端付近を、やや掘り下げて園路がつけられています。植物の研究用の施設なので、普段は公開されていません。しかし 2 月から 4 月上旬までは一般入園者にも公開されているのです。残念ながら、あまり通る人は見かけませんでした。

私が行った時は、ニリンソウの群落が開花を始めたところでした。ニリンソウ（二輪草）は名の通り、葉の間から 2 本の花柄を出し二輪ずつ咲く、可憐な姿をしています。本来、武蔵野台地の台地上や段丘崖に普通に見られた野草ですが、今は野生のものは絶滅が危惧されています。

(2025 年 4 月上旬／文京区・小石川植物園)

